



## 未来都市に憩いの屋台

当センターでは年 1、2 回、日常業務に関連した施設、参考になりそうな施設を訪問して色々と学ぶという目的で見学会を行なっています。本年度は去る 5 月 31 日に、千葉県柏市にある『柏の葉スマートシティ』の施設見学に行きまして。PL 相談の仕事と関係ないんじゃないかって、いやいや、関係大有りです。人々の暮らしが今後どのように変化していくのか、その中で“化学”はどんな役割を果たすのか、一見こじつけとも思える遠大なテーマの下、独断と偏見で見学先を決めさせていただきました。

一般にスマートシティとは、IT や環境技術などの先端技術を駆使し、街全体の電力の有効利用を図ることで省資源化を徹底した環境配慮型都市のことを指し、スマートグリッド(次世代送電網)と呼ばれる設備の敷設と運用が中心になります。柏の葉スマートシティも同様に、インフラの中心にスマートグリッドが置かれています。ただし、他のスマートシティとの違うところは、①環境共生都市、②新産業創造都市、③健康長寿都市の 3 つのテーマが設定されており、これを公・民・学の連携プレーで進めている所です。

### 柏の葉スマートシティの生い立ち

柏の葉スマートシティのある場所は、鉄道の駅で言うとつくばエクスプレスの柏の葉キャンパス駅、東京都心部からは北東に 25 km ほどの距離にあります。ここは、元々は柏ゴルフ倶楽部というゴルフ場があった場所。それが、つくばエクスプレスの計画に伴い、千葉県による土地区画整理で再開発となりました。隣接するエリアには先行して、東京大学柏キャンパス(2000年)、千葉大学柏の葉キャンパス(2003年)が出来、



2005年のつくばエクスプレス開通を経て、2005年～2014年にかけて商業施設や分譲マンションなどが出来たという流れ。ここまでが街づくりの第一ステージです。

このような生い立ちが柏の葉スマートシティの特長につながっています。一つは、元ゴルフ場の広大な土地に白紙の状態から都市計画が成され街づくりが行なわれたため制約が少なく、思い切った取り組みが成されています。もう一つは、隣接して大学のキャンパスが置かれたことで、公・民・学の協働で街づくりが議論され、進められている点です。その中心となる組織がUDCK(柏の葉アーバンデザインセンター)。様々な団体が協働で街づくりを行なう際の拠点となるアーバンデザインセンター、今でこそ全国に19ヶ所ほど存在しますが、その第一号は2006年に設立されたUDCKです。UDCKが出来たことで、スマートグリッドを中心とした『環境共生』だけでなく、起業

とイノベーションを推進する『新産業創造』、日本の大きな社会問題である超高齢社会に取り組む『健康長寿』といったテーマが設定されています。

## **2011年の出来事とその後**

街づくりの第一ステージの途中で大きな出来事が起こります。2011年3月11日に発生した東日本大震災。この時、柏の葉スマートシティのエネルギー関連設備は既に出来上がっており、当時の最先端の設備を備えていました。しかし、これが災害時のバックアップには成っていませんでした。ここから、環境共生にプラスして”災害に強い“という課題が生まれ、それを実現するための検討が始まりました。柏の葉スマートシティには数箇所に大容量の蓄電池が供えられています。平常時にはこれに太陽光発電などの再生可能エネルギーや安価な夜間電力を蓄えてエコに活用し、非常時には蓄電池をバックアップ電源として街に供給するシステムが構築されました。このシステムのポイントは街区を越えて電気を融通し合うこと。その実現には、技術的課題だけでなく、行政や電力会社との調整が必要であったとのこと。この災害にも強いスマートグリッドは柏の葉スマートシティの大きな特長になっています。

## **都市も歳を取る**

高度成長期に人々は東京に集中し、その住まいとして郊外に数多くのベッドタウンが作られました。ベッドタウンは出来た当初こそ働き盛りの人たちが住み、活気に溢れた街でしたが、やがて人々は年老いて街全体が高齢化し、かつての活気を失ってしまった所も数多く存在します。今回の見学会に際し、そのような過去の事例が頭をよぎりました。そして、柏の葉スマートシティはどの様に歳を取ろうとしているのか、活気を持続するための対策はあるのか。これも知りたいことの一つでした。

この問いに対しては「この街をベッドタウンにはしたくない、人々が自然と集まってくるような街にしたい」と明快な回答が返ってきました。そのためにしているのが、起業の推進。KOIL（柏の葉オープンイノベーションラボ）という大規模なコワーキングスペースを提供して、知と情報の交流を図り、起業のハードルを下げイノベーションを生み出す土壌としています。また、柏の葉スマートシティには国際的な会議が開催できる設備が備わっており、人と情報が自然と集まるような機能を果たしています。

柏の葉スマートシティは分譲マンションが主ですが、一部は賃貸として提供されており、これにより常に人が出入りする余白を残しているとのこと。現状では、東京都心部から25kmの立地であることもあり、都内に通勤している人が多いとのことですが、先々は職住近接の環境を整備して行きたいとのこと。それがこれから始まる第二次の街づくりのテーマに繋がっているようでした。

## **憩いの場**

街づくりが進んでいく中で、当初の計画には無かったけれども、是非とも必要と皆が言い出したことがあるとの話。何だろうと思っていたところ、仕事に後にちょっと一杯やれる“憩いの場”、そう、居酒屋などが立ち並ぶ飲み屋街です。柏の葉スマートシティにあるショッピングモールにも飲

食店はありますが、こちらはレストランが中心で 22 時には閉店します。たしかに“ちょっと一杯”という雰囲気ではありません。そこで、つくばエクスプレスのガード下、駐輪場が置かれていた場所に、「屋台」をモチーフにした 19 軒の居酒屋などの小さな飲食店舗が立ち並ぶ飲み屋街が出来、「かけだし横丁」と名づけられました。

この話を聞いて感心したのは、大型店舗ではなく小型店舗にしたこと、19 軒と多くの店舗を作



ったことでバラエティ感が出て、選ぶ楽しさがあることです。また、この計画には、新たに起業して飲食店をやる人が参入し易いような配慮が成されているとのこと。

21 世紀のキーワードは、“持続可能性”と言われています。確かに、新しい街づくりにも持続可能性を実現するための仕組みが重要になってくると感じた一日でした。また、街は人が集まってこそ成立するもの、人が集まれば“カオス”が生まれ、そこから新しい発想が出て、イノベーションに繋がっていく。「かけだし横丁」は、そういった動きの潤滑油的な働きを担うような気がします。“かけだし”という言葉には、ここから“駆け出す”という思いがこもっているとのこと。新しい何かを生み出しそうな予感のする柏の葉スマートシティの今後から目が離せません。

#### 【参考とした情報】

- 1) 柏の葉スマートシティHP (<https://www.kashiwanoha-smartcity.com/>)
- 2) スマートシティ大解剖 a t 柏の葉 (<https://emira-t.jp/special/theme/3376/>)